

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

赤川流域の自然環境は、急峻な山々が連なる流域上流部、梵字川合流点付近の扇状地形から国内有数の穀倉地帯である庄内平野へと続く中流部、庄内平野から庄内砂丘を経て日本海に注ぐ下流部に、大きく三区分される。

源流から梵字川合流点までの上流部は、磐梯朝日国立公園に指定されている出羽三山、朝日連峰をはじめとして険しい山々が連なる。全山に亘ってブナ・ナラ等の広葉樹林帯であり、ニホンツキノワグマ・ニホンカモシカ・アナグマ・タヌキ・テン・イヌワシ・クマタカ等、数多くの動物の生息が認められている。また、深い渓谷にはイワナ・ヤマメ等、清流を好む魚類が生息している。

梵字川合流点から内川合流点までの中流部は、庄内平野が広がる穀倉地帯の扇状地となり、連続した瀬と淵や中洲が見られ、アユ・ウグイ・カジカの生息・産卵場となっている。また、ヤナギ類やオニグルミ等樹木の群落が見られる他、近年では外来種であるハリエンジュ等の分布が拡大し、赤川本来の礫河原の減少や洪水流の流下阻害が懸念されている。

内川合流点から大山川合流点の下流部は、緩勾配で川幅が広く、大きな蛇行が見られ、舟運の航路維持のために設置された水制工が数多く残されており、その周辺にワンドや淵が形成され、ニゴイやタモロコのほか、ジュズカケハゼ等が生息している。また、河川敷は地域の名産である庄内柿などの果樹栽培、畑地等の利用が多い。

大山川合流点から河口までの放水路区間は、庄内海浜県立自然公園に指定されており、日本でも屈指の大砂丘が広がり、植林から約50年の歳月を経たクロマツ林が防風林地帯を形成している。河口には砂丘が発達している環境を受け、ハマナス・ハマヒルガオ・ハマニンニク等の海岸特有の植物が生育し、水域ではカマキリ（魚類）・テナガエビなどが生息し、サクラマス・サケの遡上が見られる。



上流部：以東岳
(出典：「庄内の大地」鶴岡市教委教育委員会)



中流部：庄内平野を流れる赤川
(出典：酒田河川国道事務所)



下流部：河口部の砂浜とクロマツ林
(出典：酒田河川国道事務所)

赤川流域では流域上流部の出羽三山（月山、羽黒山、湯殿山の総称）および朝日連峰が磐梯朝日国立公園に指定されている。また、赤川河口部近辺ならびに鶴岡市中央部は庄内海浜県立自然公園に指定されている。

鳥獣保護区は、自然公園に指定されている地区と区域が重なっており、その他には森林鳥獣生息地の保護地区として摩耶山周辺が鳥獣保護区に指定されている。

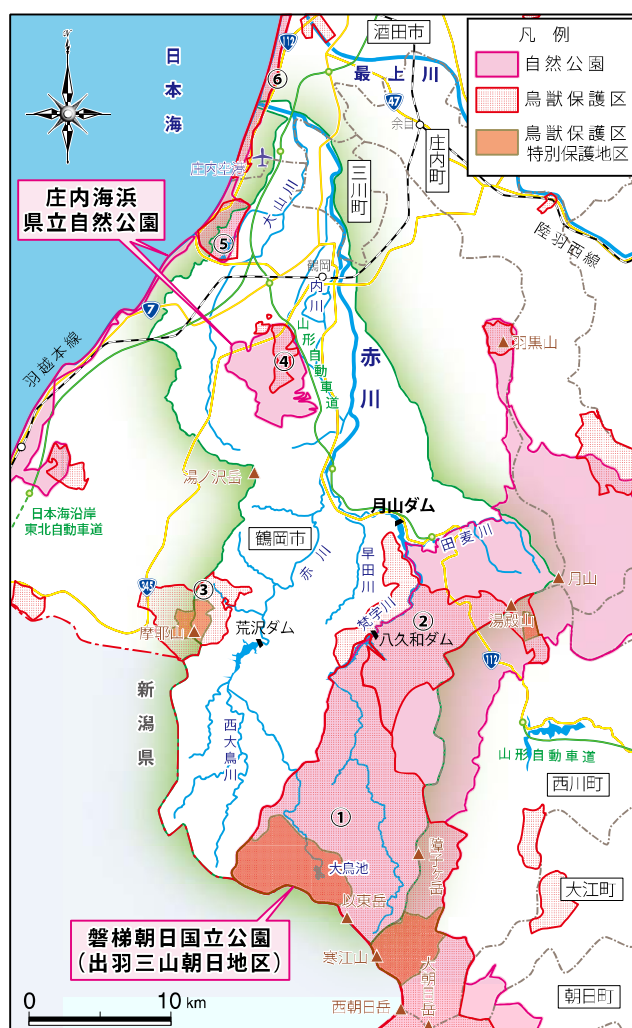


図 2-1 自然公園および鳥獣保護区

(平成 17 年度 山形県鳥獣保護区域図より作図)

表 2-1 流域内の自然公園および鳥獣保護区の指定状況

区分	名称	面積 (ha)	備考
国立公園	磐梯朝日国立公園 (出羽三山朝日地区)	186,404	昭和 25 年 9 月 5 日指定 全国で 3 番目に大きい国立公園
県立自然公園	庄内海浜県立公園	6,568	昭和 23 年 8 月 5 日指定
鳥獣保護区	国指定 大鳥朝日 (①)	28,677	希少鳥獣生息地の保護区：特別保護地区 4,561ha
	県指定 田麦俣 (②)	5,903	森林鳥獣生息地の保護区
	県指定 摩耶山 (③)	2,560	森林鳥獣生息地の保護区：特別保護地区 549ha
	県指定 金峰 (④)	523	身近な鳥獣生息地の保護区
	県指定 高館山 (⑤)	970	身近な鳥獣生息地の保護区
	国指定 最上川河口 (⑥)	1,537	集団渡来地の保護区

※表中の丸数字は、図中の地点を示す。

2-2 河川の自然環境

流域のほとんどを山地で占める赤川流域の中で、河川の直轄管理区間は月山ダム区間を除き、扇状地地形より下流に位置する。

河川の自然環境は、河道特性、地形特性及び生物の出現状況から、梵字川合流点より上流の山岳地帯を流れる溪流環境の上流部（梵字川合流点～源流：31.6k～源流）、瀬と淵が連続し、礫河原の広がる中流部（内川合流点～梵字川合流点：14.0k～31.6k）、緩やかな勾配で大きく蛇行しながら庄内平野を流れる下流部（大山川合流点～内川合流点：2.8k～14.0k）、放水路を通じて日本海へと至る汽水域の下流部（河口～大山川合流点：0.0k～2.8k）に区分される。

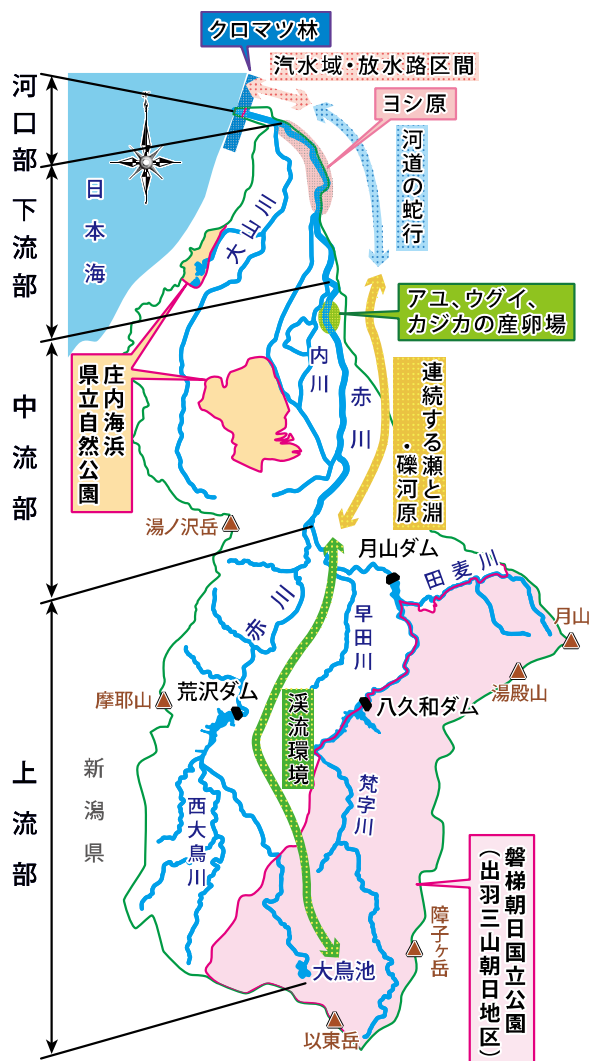


図 2-2 赤川の自然環境区分

表 2-2 河川区分と自然環境

区 分	河口部	下流部	中流部	上流部
区 間	河口～大山川合流点	大山川合流点～内川合流	内川合流点～梵字川合流	梵字川合流点～源流
地 形	平地	平地	扇状地	山地
特 性	汽水域、放水路	蛇行区間、ワンド	瀬と淵、礫河原	溪流、瀬と淵
河床材料	砂	砂	砂礫	砂礫～玉石
勾 配	1/1,100	1/2,500	1/1,000～1/190	1/140～1/15
植 物 相	ハマナス、ハマニンニク、コマツナギ、ノダイオウ、クロマツ林等	タコノアシ、ツルアブラガヤ、オオイヌタデ、ヨシ、ヤナギ類等	タコノアシ、ミクリ、サジヤモダカ、オギ、ヨシ、ヤナギ類、ススキ、オニグルミ、ハリエンジュ等	ブナ、チシマザサ、ミズナラ等
動 物 相	カモ類、コアジサシ、カマキリ、サクラマス、サケ、テナガエビ等	タモロコ、ジュズカケハゼ、アユ、ウグイ、ニゴイ、サクラマス、テナガエビ、モノアラガイ、オオタカ、オジロワシ、アオジ、オオヨシキリ等	アユ、ウグイ、カジカ、ジュズカケハゼ、スナヤツメ、カワヤツメ、サギ類、ヤマガラ、アオゲラ、カジカガエル、ニホンリス等	イワナ、ヤマメ、ニホンツキノワグマ、ニホンカモシカ、アナグマ、タヌキ、テン、イヌワシ、クマタカ等

(1) 上流部（梵字川合流点～源流：31.6k～源流）

【現状】

- 磐梯朝日国立公園の出羽三山や朝日連峰が連なり、ブナ・ナラ等の広葉樹が分布し、ニホンツキノワグマ・ニホンカモシカ・イヌワシ・クマタカ等、数多くの動物が生息している
- 河床勾配は 1/15～1/140 程度と急流で、深い溪谷にはイワナ、ヤマメなど清流を好む魚類が生息している

【対応】

◎ イワナ、ヤマメ等の生息・繁殖場となっている溪流環境の保全に努める



クマタカ
(出典：新庄河川事務所)



あさひ月山湖（月山ダム）から見た月山
(出典：月山ダム管理所)

(2) 中流部（内川合流点～梵字川合流点：14.0k～31.6k）

【現状】

- 扇状地を流れ、河床勾配は 1/190～1/1,000 程度となっており、全区間に渡って礫河原を形成している
- 良好な瀬・淵が連続し、アユ・ウグイ・カジカなど魚類の生息・繁殖場となっている
- 水際には、タコノアシ、ミクリなどの湿地性植物、ヤナギ群落が生育している



扇状地を流れる赤川（26k 付近）

【課題】

- ◆ 治水上、流下能力が不足するため、河道掘削が必要
- ◆ 瀬・淵やタコノアシ等の植物重要種への配慮が必要
- ◆ 近年、砂州の固定化により、外来種であるハリエンジュ等が拡大
- ◆ 中流部の代表的な景観となっている礫河原が減少傾向にある

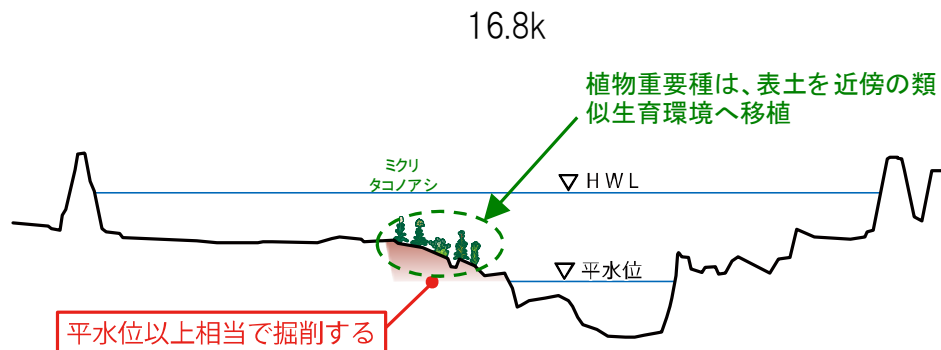


ハリエンジュの拡大(28.2k 付近)

（出典：酒田河川国道事務所）

【対応】

- ◎ アユ等の魚類の生息・繁殖環境となっている瀬・淵を保全するために、平水位以上相当で掘削を実施
- ◎ タコノアシ等の植物重要種への影響を回避・低減するために、必要に応じて、ミチゲーション等で対応
- ◎ 外来種であるハリエンジュは伐開し、伐開後の萌芽防止効果をモニタリングしながら、駆除・拡大防止に努める
- ◎ 中洲の切り下げ等により、礫河原の再生・保全に努める



■ 自然再生事業

床止等により土砂移動が阻害される中、ダムによる攪乱頻度の低下や砂利採取による河床の低下により、中州・寄州の固定化や濘筋の固定化が進行している。

上流域でハリエンジュ等が植林されており、洪水等により種子が運ばれ、固定化された中州・寄州で外来種であるハリエンジュが繁茂し、固定化を助長するとともに礫河原や在来植物が減少している。

また、濘筋の固定化に伴い、河川の流が単調化し、アユやウグイ等の生息・繁殖に重要な瀬・淵環境が減少している。床止には落差があり、魚類等の遡上・降下の障害となり、赤川を代表するサクラマスが減少している。

これらの問題を解消するために H17 年度より「赤川自然再生事業」に取り組んでおり、学識経験者や地元有識者等により構成される「赤川自然再生計画検討会」の助言を得て進めている。H19 年 12 月現在、ハリエンジュの試験伐採 (H17～) や魚道設置 (H18～) の取り組みがなされており、今後も各種検討ならびにモニタリングに取り組んでいく必要がある。

【自然再生の目標】

在来の多様な生物を育む、赤川らしい豊かな流れの再生

～昭和 30 年代後半から昭和 40 年代前半の姿を目指す～

【整備の目標】

- 適正な樹木管理による赤川らしい植生と河原環境の保全・創出
- 多様な流れの形成による様々な生物が生息できる水域環境の保全・創出
- 水生生物の生息域拡大に向けた河川連続性の確保

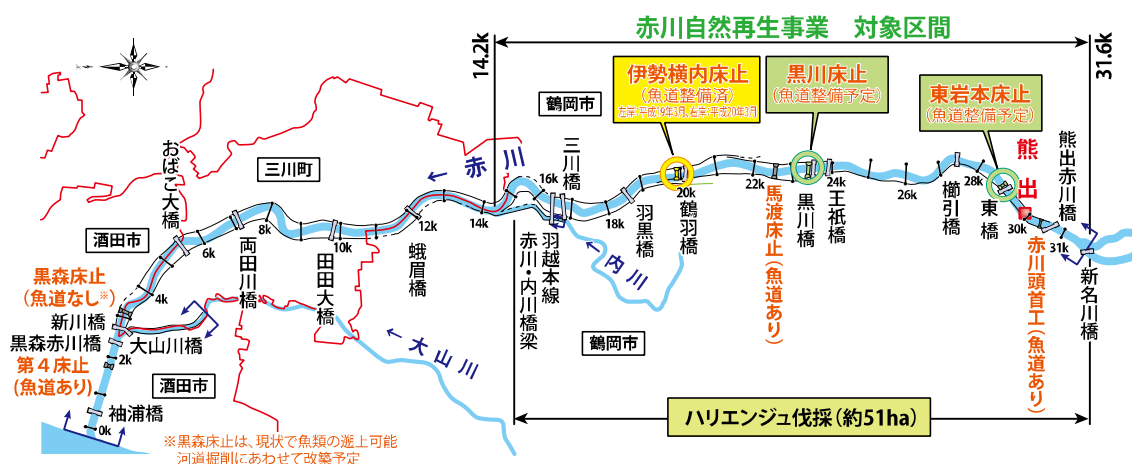


図 2-3 自然再生事業区間

【目標達成に向けた取り組み】

●適正な樹木管理による赤川らしい植生と河原環境の保全・創出

<良好な樹木群の保全>

ハビタットとして重要な機能を果たすものなど、良好な樹木群を保全する

<ハリエンジュ伐採>

河道内に繁茂した樹木群に対し、伐開、伐根等を行う。

特に外来種であるハリエンジュの拡大を防止するため、試験施工を実施し、伐開後の萌芽状況のモニタリングを実施。



ハリエンジュ試験施工状況

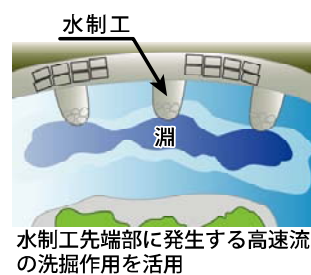
- 覆土や、表土と地中の土の入れ替えなど、伐開後の萌芽を抑制する試験施工を実施
- モニタリング結果から、萌芽抑制効果を確認
- 実生（種子からの発芽）が見られたことから、ハリエンジュ群落跡地にシードバンクを形成している可能性があるため、経過観察が必要

試験施工の様子



●多様な流れの形成による様々な生物が生息できる水域環境の保全・創出

過去に良好な淵が形成されていた箇所、規模が縮小、あるいは機能が低下していると考えられる淵を対象に、水制工の設置等による淵の再生を検討する。



●水生生物の生息域拡大に向けた河川連続性の確保

<床止工の改築・魚道の設置>

魚類の遡上障害となっている伊勢横内床止、黒川床止、東岩本床止に対して魚道を設置することとし、伊勢横内床止工では平成 18 年度に左岸、平成 19 年度に右岸の魚道整備を実施した。

【伊勢横内床止】



魚道設置前（平成 16 年 8 月）

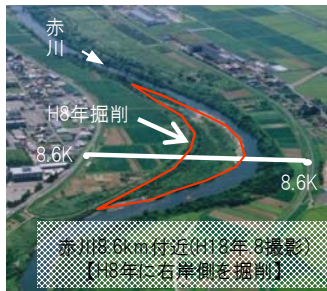
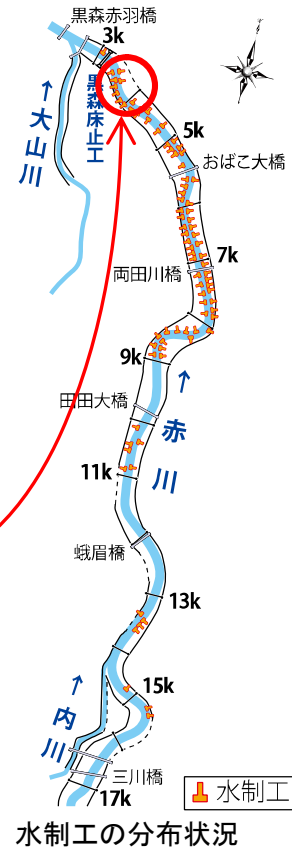


魚道設置後（平成 19 年 3 月）

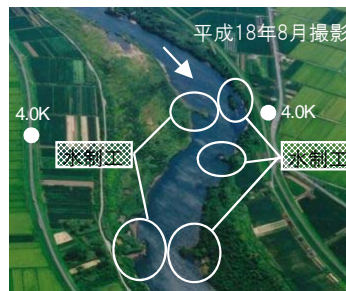
(3) 下流部（大山川合流点～内川合流点：2.8k～14.0k）

【現状】

- 河床勾配は 1/2,500 程度と緩やかで蛇行が大きい。舟運の航路維持のために設置された古い水制工（粗朶単床等）が数多く残されており、その周辺にはワンドや淵が形成されている
- ワンドには、魚類重要種であるジュズカケハゼが生息している
- 水際にはタコノアシ、ツルアブラガヤなどの湿地性植物、ヤナギ群落が生育している
- 大山川の支川湯尻川では、イバラトミヨの生息が確認されている



下流部（8.6k）
（出典：酒田河川国道事務所）



水制工（4.0k 付近）

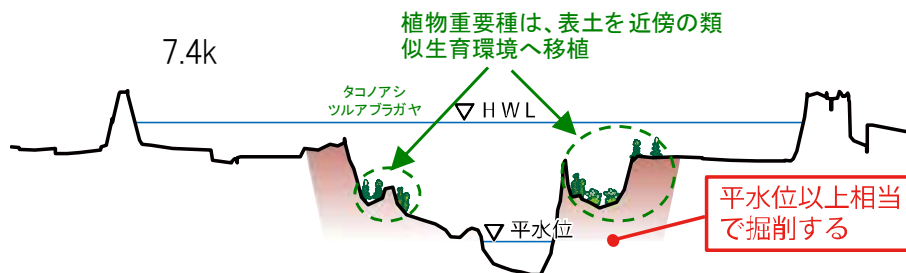
水制工の分布状況

【課題】

- ◆ 治水、流下能力が不足するため、河道掘削が必要
- ◆ ワンドやタコノアシ等の植物重要種への配慮が必要

【対応】

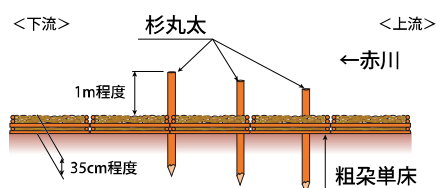
- ◎ 水制工を存置し、ジュズカケハゼ等の魚類の生息場となっているワンドを保全するために、平水位以上相当で掘削を実施
- ◎ タコノアシ等の植物重要種への影響を回避・低減するために、必要に応じて、ミチゲーション等に対応



■ 既存水制工の取り扱い

現在赤川下流部に残っている水制工は、主に舟運のための低水工事として、酒田から鶴岡（内川合流点）まで、明治18年から明治34年（鉄道の開通により舟運が衰退し、工事打ち切り）に築造されたもので、現在は局所的な土砂堆積等の影響で見えないものが多いが3.6k～9.0k間に60基程度が残っている。水制工の構造は、粗朶単床や玉石木枠工等である。

水制工が数多く残っている4k～8k付近には、ワンドや淵が形成されており、水制工周辺のワンドはジュズカケハゼやウグイ等、魚類の生息環境となっている。



水制工の構造図
(最上川工事史より)

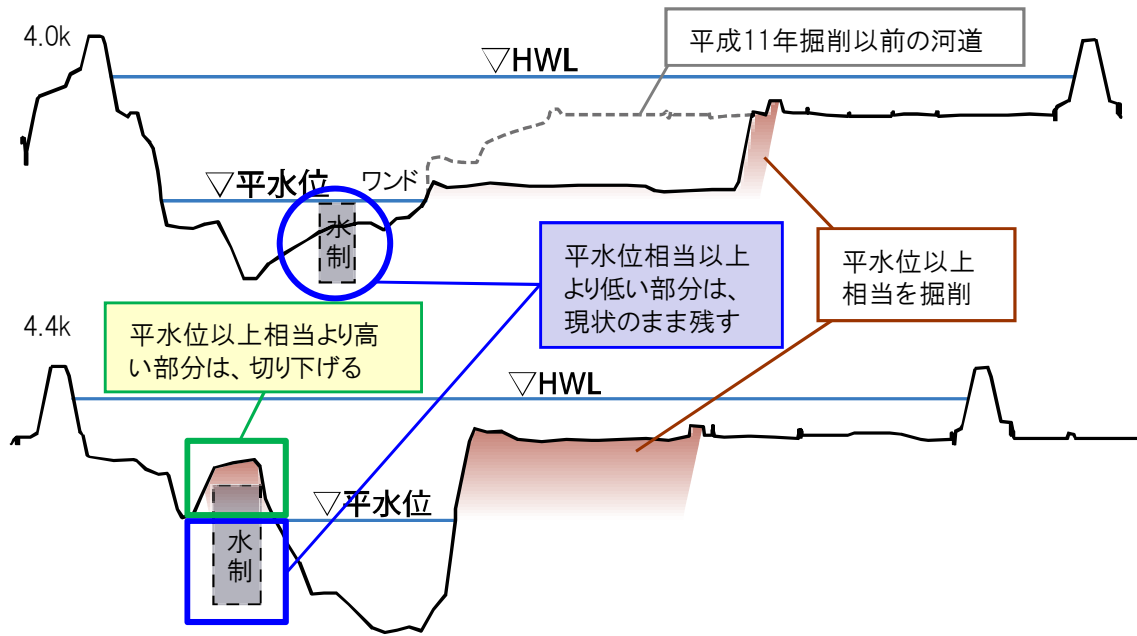


4k～8k 付近の水制工の配置状況

● 河道掘削時の水制工の扱い

河積を確保するために平水位以上相当の掘削を行うが、この際、水制工については、平水位より高い位置に水制工の上部が突出している場合は、周辺河道の土砂移動の実態や環境への影響を勘案し対策を検討、平水位より低い部分は、現状のまま残すことを基本とする。

これにより、ワンドや淵等の環境の保全に努める。



河道掘削時の水制工の扱い

- 平成11年から、流下能力を確保するため、河道掘削を実施
- 水制工は、平水位よりも低い部分は残しており、掘削後もWンドや淵が保全されている

河道掘削前(4.0k付近)

↓

河道掘削後(4.0k付近)

水制工

◆ 掘削後の水制工現況写真(H20.5)
Q=約90m³/s(撮影時)
※豊:104m³/s 平:62m³/s 低:38m³/s 湧:8m³/s
(H9-H18平均)

● 水制工存置によりWンドは河道掘削後も保全

河道掘削箇所

河道掘削後(4.0k付近)

河道掘削の水制工の状況 (実施済み)

(4) 河口部（河口～大山川合流点：0.0k～2.8k）

【現状】

- 庄内砂丘を開削した放水路区間で、汽水環境となっており、河床勾配は 1/1,100 程度。周辺はクロマツ林により防風林地帯を形成している
- 河口付近は、ハマナス・ハマヒルガオ・ハマニンニク等の海岸特有の植物や、コマツナギ、ノダイオウ等が分布している
- 水域はカモ類の集団越冬地や、汽水域に生息するカマキリ（魚類）、テナガエビなどが生息している

【課題】

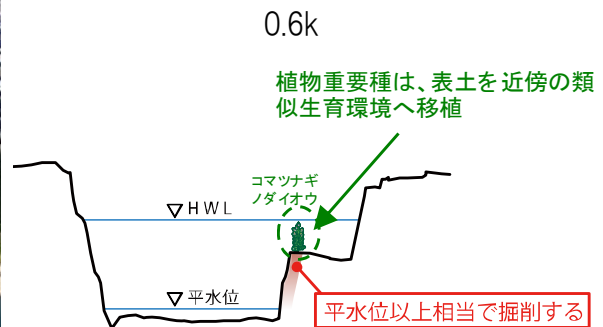
- ◆ 治水、流下能力が不足するため、河道掘削が必要
- ◆ 汽水環境、コマツナギ等の植物重要種への配慮が必要

【対応】

- ◎ 汽水域に生息するカマキリ等の魚類等の生息環境を保全するために、平水位以上相当で掘削を実施
- ◎ コマツナギ等の植物重要種への影響を回避・低減するために、必要に応じてミチゲーションで対応



赤川河口部（0k 付近）
（出典：酒田河川国道事務所）



(5) 赤川における重要種

赤川における特定種を河川水辺の国勢調査の調査結果を元に、レッドリスト（環境省）記載種、天然記念物指定種など学術上または希少性の観点から重要なものを抽出した。

重要種に抽出した貴重な動植物は、植物 9 種、鳥類 18 種、哺乳類・爬虫類 2 種、魚介類 4 種、エビ・貝類 2 種、底生生物 2 種、陸上昆虫類 4 種で、両生類には重要種はいなかった。

表 2-3 重要種の選定基準

法令・文献の名称	該当種目
文化財保護法	鳥類
絶滅のおそれのある野生生物の種の保存に関する法律	鳥類
環境省レッドリスト	植物、魚介類、底生動物、鳥類
レッドデータブックやまがた	植物、魚介類、底生動物、鳥類、 爬虫類、哺乳類、陸上昆虫類

表 2-4 赤川の重要種

項目	番号	種名	選定根拠			
			文化財保護	種の保全	環境省 RDB	山形県 RDB
植物	1	イヌドクサ				絶滅危惧 2 類(VU)
	2	オオバヤナギ				絶滅危惧 2 類(VU)
	3	ノダイオウ			準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
	4	タコノアシ			準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧 IB 類 (EN)
	5	コマツナギ				絶滅危惧 2 類(VU)
	6	スズサイコ			準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
	7	サジオモダカ				絶滅危惧 IB 類 (EN)
	8	ミクリ			準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧 2 類(VU)
	9	ツルアブラガヤ				準絶滅危惧(NT)
魚類	1	スナヤツメ			絶滅危惧 II 類 (VU)	情報不足 (DD)
	2	アカザ			絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 I B 類 (EN)
	3	カマキリ				要注目
	4	ジュズカケハゼ				情報不足 (DD)
底生動物	1	モノアラガイ			準絶滅危惧 (NT)	
	2	テナガエビ				情報不足 (DD)
鳥類	1	ハジロカイツブリ				準絶滅危惧 (NT)
	2	アマサギ				準絶滅危惧 (NT)
	3	チュウサギ			準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
	4	マガン	天然記念物		準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
	5	オシドリ				準絶滅危惧 (NT)
	6	ミサゴ			準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
	7	オジロワシ	天然記念物	国内希少	絶滅危惧 IB 類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)
	8	オオタカ		国内希少	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 II 類 (VU)
	9	ツミ				準絶滅危惧 (NT)
	10	ハヤブサ		国内希少	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 II 類 (VU)
	11	チゴハヤブサ				準絶滅危惧 (NT)
	12	オオジシギ			準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 II 類 (VU)
	13	コアジサシ			絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 IB 類 (EN)
	14	セグロセキレイ				準絶滅危惧 (NT)
	15	コヨシキリ				準絶滅危惧 (NT)
	16	オオヨシキリ				準絶滅危惧 (NT)
	17	アオジ				準絶滅危惧 (NT)
	18	オオジュリン				絶滅危惧 IB 類 (EN)
爬虫類	1	ヒバカリ				情報不足 (DD)
哺乳類	2	ニホンリス				準絶滅危惧 (NT)
陸上昆虫類	1	ミツカドコオロギ				要注目
	2	カネタタキ				要注目
	3	ノギリカメムシ				要注目
	4	アカガネオサムシ				準絶滅危惧 (NT)

注) 選定根拠 文化財保護：文化財保護法
種の保存：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
環境省 RL：環境省レッドリスト（日本の絶滅の恐れのある野生生物の種をリストアップし、それらの分布状況等を取りまとめたもの）
山形県 RDB：レッドデータブックやまがた

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

赤川流域上流部には大鳥池や日本の滝 100 選に選ばれている七ツ滝など独特の自然景観が広がっている。平成 13 年に竣工した月山ダムによって誕生したあさひ月山湖の上流部にも絶壁の岩肌や滝など自然の美しさを見せるアカクラ・アオクラ等が見られる。

直轄管理区間では扇状地区間の河畔林や礫河原の広がる河川景観、下流部では庄内平野越しに月山や鳥海山が眺望できる開けた河川景観を有する。また、河口部では日本海とクロマツ林による四季折々の景観が楽しめる。

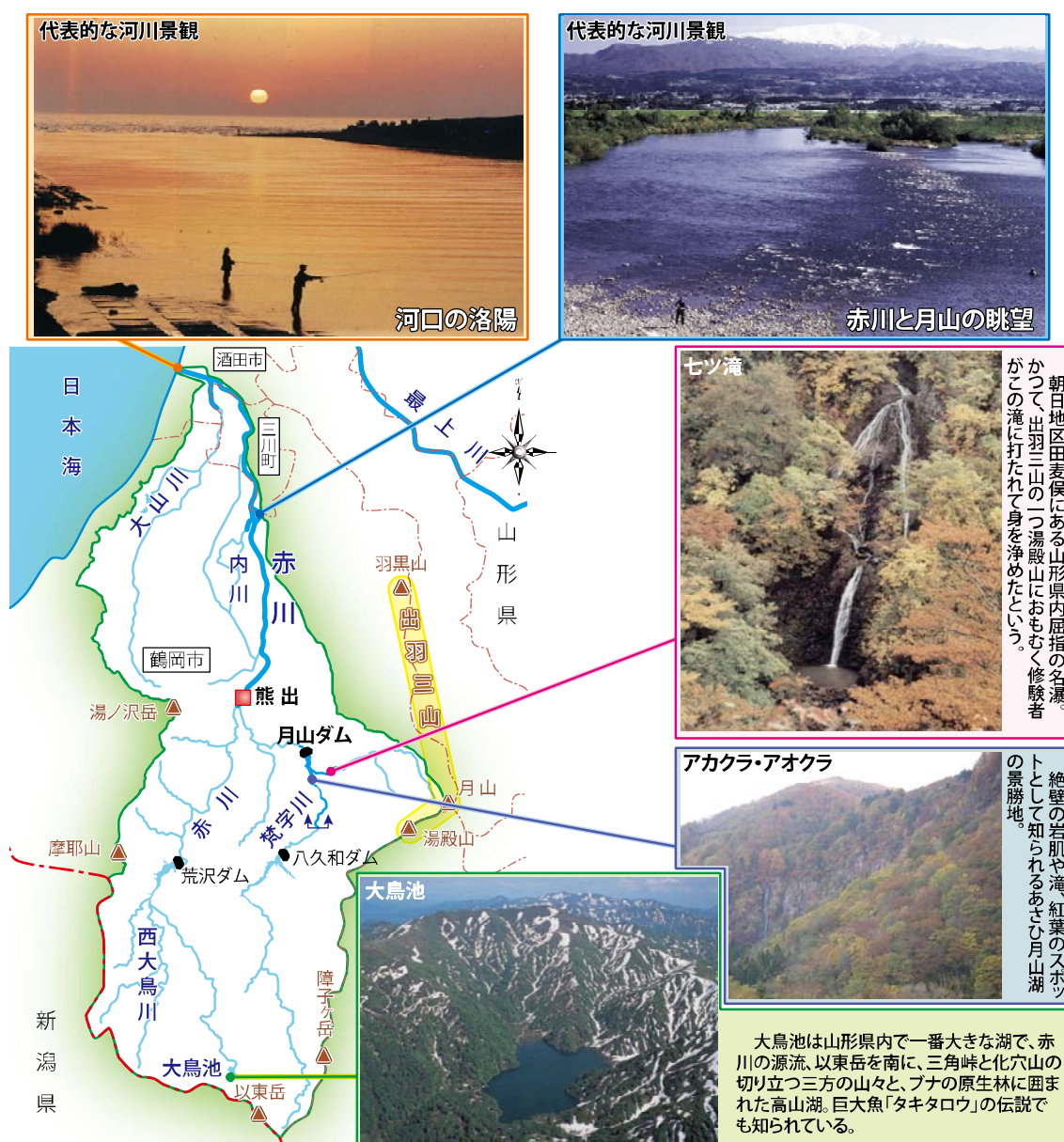


図 2-4 赤川流域の河川景観

(2) 流域の名勝・史跡・天然記念物

修験道のメッカとして厚い信仰を集めている出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山の総称）をはじめ、自然環境の豊かな山地部に対して、国指定の重要文化財や史跡・名勝・天然記念物は流域中流部に集中している。特に城下町として栄えた鶴岡市の中心部には、史跡『藩校・致道館跡』や名勝『酒井氏庭園』等がある致道博物館があり、旧庄内藩主酒井家の御用屋敷であった館内には、国宝の太刀をはじめ数多くの重要文化財や重要民俗文化財が収容されている。

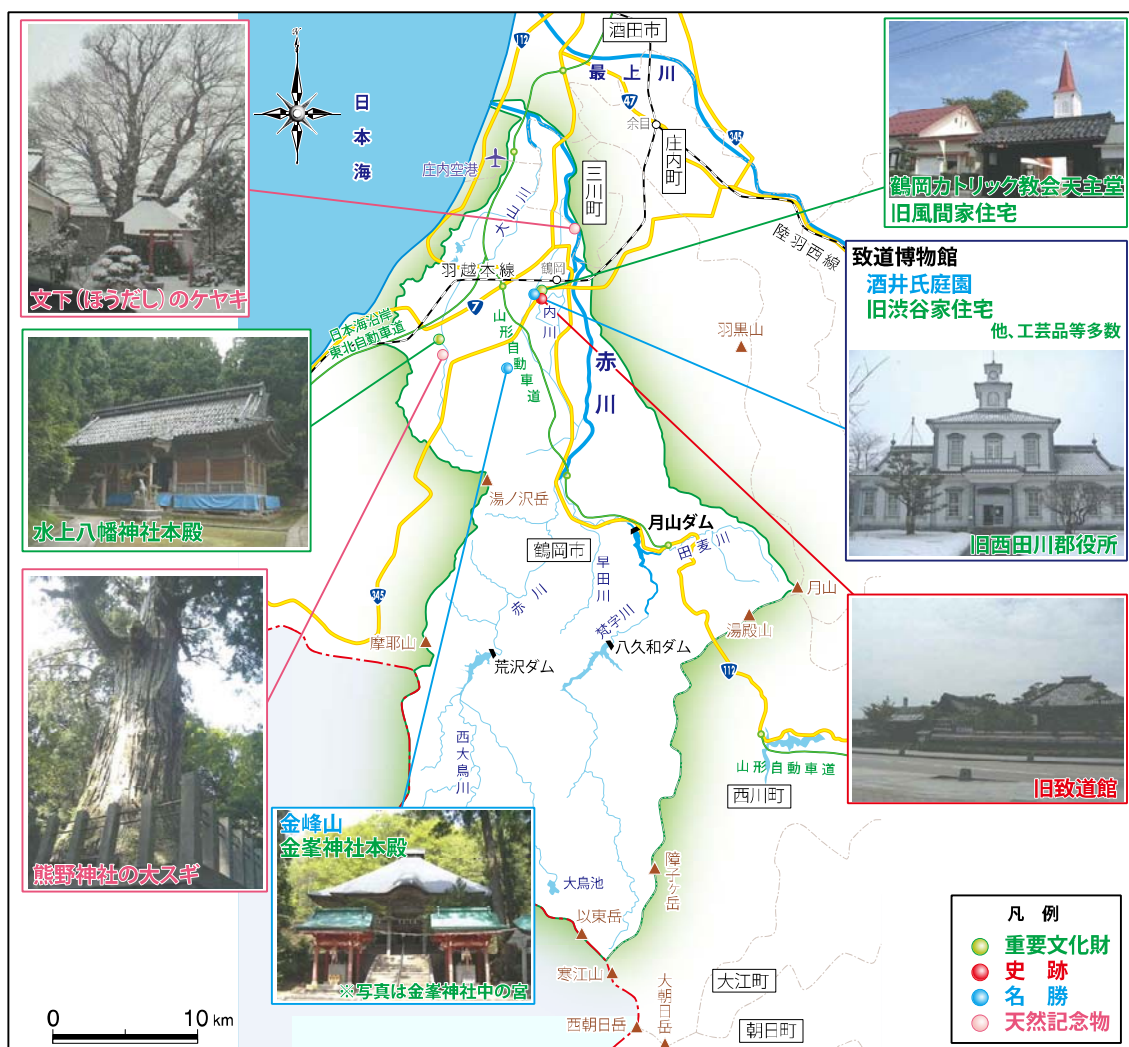


図 2-5 赤川流域の主要な文化財・史跡・名勝・天然記念物

(写真出典：鶴岡市観光連盟)

また、500年の歴史を有し、国指定の重要民族無形文化財に指定されている黒川能や、250年の歴史をもつ酒田市の黒森歌舞伎など各地で貴重な伝統芸能が守り伝えられており、松尾芭蕉が当地域を訪れ、「奥の細道」で名句を残しているなど、数々の文学作品の舞台としてもとりあげられている。

表 2-5 国宝・国指定重要文化財・史跡・名勝・天然記念物

種別	指定年月日	名称	所在地
国宝	工芸品	S27.3.29 太刀 銘 信房作 附 糸巻太刀拵	鶴岡市家中新町 10-18
	工芸品	S28.3.31 太刀 銘 真光 附 糸巻太刀拵	鶴岡市家中新町 10-18
重要文化財	建造物	M41.4.23 水上八幡神社本殿	鶴岡市水沢字楯ノ下 1
	建造物	S44.12.18 旧西田川郡役所	鶴岡市家中新町 10-18
	建造物	S44.12.18 旧渋谷家住宅	鶴岡市家中新町 10-18
	建造物	S54.5.21 鶴岡カトリック教会天主堂	鶴岡市馬場町 7-40
	建造物	H12.12.4 旧風間家住宅	鶴岡市馬場町 1-15
	建造物	H13.11.14 金峯神社本殿	鶴岡市青龍寺字金峯 1
	絵画	S57.6.5 絹本著色王昭君図 菱田春草筆	鶴岡市下川字関根 100
	工芸品	S10.4.30 短刀 銘 吉光 (名物信濃藤四郎)	鶴岡市家中新町 10-18
	工芸品	S27.3.29 刀 折返銘 備州長船住元重	鶴岡市家中新町
	工芸品	S32.2.19 色々威胴丸 兜、頬当、大袖、籠手付	鶴岡市家中新町 10-18
	工芸品	S48.6.6 銅鉢 (蔵王権現御宝前正和二年 云々の刻銘がある)	鶴岡市青龍寺字金峯 1
	工芸品	S60.6.6 能装束 紅地蜀江文黄緞狩衣 白地草花海賦文辻ヶ花染肩裾小袖	鶴岡市黒川字椿出 263
	工芸品	S60.6.6 能装束藍紅紋紗地太極図印金狩衣	鶴岡市黒川字小在家 33
書跡	S27.3.29 禅院額字 潮音堂	鶴岡市家中新町 10-18	
重要民俗文化財	有形	S38.5.15 庄内のぼんどりコレクション	鶴岡市家中新町 10-18
	有形	S39.5.29 庄内の木製酒器コレクション	鶴岡市家中新町 10-18
	有形	S41.6.11 庄内の仕事着コレクション	鶴岡市家中新町 10-18
	有形	S46.12.15 大宝寺焼コレクション	鶴岡市家中新町 10-18
	有形	S47.8.3 庄内および周辺地のくりものコレクション附 工具 21 点	鶴岡市家中新町 10-18
	有形	S51.8.23 庄内浜及び飛島の漁撈用具	鶴岡市家中新町 10-18
	有形	S57.4.21 最上川水系の漁撈用具	鶴岡市家中新町 10-18
	無形	S51.5.4 黒川能	鶴岡市黒川
史跡	S26.6.9 旧致道館	鶴岡市馬場町 11 - 22 ほか	
名勝	S16.4.23 金峰山	鶴岡市青龍寺字金峯 1 ほか	
	S51.12.27 酒井氏庭園 (致道博物館内)	鶴岡市家中新町 10-18	
天然記念物	S2.4.8 熊野神社の大スギ	鶴岡市水沢字熊野前 53 の内	
	S26.6.9 文下 (ほうだし) のケヤキ	鶴岡市文下字村ノ内 80 の内ほか	

(3) イベント・観光

赤川流域では数多くのイベントが年間を通じて開催されている。特に赤川と関連の強いイベントを挙げると以下のものがある。

中流部では、全国でも有数の花火大会（観客 35 万人 主催：社団法人鶴岡青年会議所）が開催されるほか、重要無形民俗文化財に指定されている黒川能が高水敷で執り行われている。また、上流部ではダム湖を利用した「月山ダムの集い」や「タキタロウまつり」が毎年開催されている。



図 2-6 赤川流域の川に関連する主なイベント・観光

(写真出典：鶴岡市、鶴岡市観光連盟、酒田河川国道事務所、月山ダム管理所)